

【第3回 島根県地震津波防災対策検討委員会】議事要旨

日 時 : 平成28年9月14日(水) 13:30~16:30

場 所 : サンラポーむらくも 2F 彩雲

出席者 : 河原委員長、汪副委員長、浅田委員、岩井委員、高橋委員、遠田委員、林委員、村上委員、森委員、横田委員

議 事 : (1) 本委員会での検討事項とスケジュール
(2) 前回委員会意見への対応
(3) L2 津波に対する津波浸水想定 of 検討
(4) L1 津波に対する設計津波水位 of 検討

■主な意見等

【L2 津波に対する津波浸水想定 of 検討】

- 前回との比較について県民に説明するのであれば、凡例を統一するか全く違うカラーコード(配色区分)にすると良い。
- メッシュを細かくすることで精度が良くなることを説明する資料があると良い。地形データの断面図のポンチ絵を示すと良い。
- 選定した最大クラスの津波以外で、津波到達時間がより早くなる断層がないか、全沿岸で確認しておくこと。
- 代表地点と全沿岸で数値が違ふ。公表時は誤解のないように整理すること。
- P36 外圍海岸の最大津波到達時間について、F30 の津波高 1.8m が 251 分であるが、F56 の津波高 1.6m は 26 分である。20cm の違いで F30 のみ示すのは危険となる。資料 5 のような一般の方への情報となる場合は、最大津波到達時間は、最短で何分、最高で何分など何パターンかあることを示すとよい。
- 前回の浸水想定 of 結果を知らない人に対しては、「前回と今回の比較」を補足資料としたほうが良い。むしろ、「遠い地震の場合、遅く大きな津波が来る」など東北沖と近場の地震津波の特徴を住民等へ分かり易く示すことが重要である。
- 資料 5 の計算モデルについて、説明をもう少し詳しく記載してほしい。数式まで書く必要があるかはわからないが、説明を加えて欲しい。
- 資料 5 P8 の対象断層と浸水想定結果(津波最高水位など) of 対応を分かり易く整理して欲しい。
- P39 留意事項 of 情報量が多すぎる。解説書には全て記載するとしても、マップに付加する際は必要最小限にした方が良い。

- 基準水位を表示する背景図は拡大表示に合った適切な図面を使用すること。
- 基準水位の定義と必要性の説明を補足すると良い。例えば、「浸水深では考慮していない地域の建物の影響が含まれている」などと記述すると良い。

【L1 津波に対する設計津波水位の検討】

- 島根県に限った話ではないが、太平洋側と異なり日本海側では L1・L2 津波の整理されていない。例えば、F24 と日本海中部地震は 1 つの断層で見ると波源域はほぼ同じであるにも関わらず、前者は L2 津波、後者は L1 津波となっている。L2 津波は、近傍の活断層の集団により津波が発生し、滅多に起こらないもので、L1 は、過去に発生した津波ということで整理されている。
- 資料 5 の表紙に、「L1 は、実際に過去に起きた津波を考慮したもの。L2 は、今後発生が想定される地震で、大すべり域も考慮したもの」など、基本的な理念の説明を追加してはどうか。
- 資料 6 に、津波と波浪の比較がしてあり、各市町村には重要な情報。補足で、「津波と波浪で再現期間が異なる」ことを記載したほうが良い。
- 壁立て計算の説明は L2 対応の計算との違いも含めて、フローチャート等でわかりやすく整理してほしい。

以上